

福岡工業大学 正員 長瀬 友治

1. はじめに

本研究は、数量化理論Ⅱ類を用い、アンケートの回答パターンを通して見出される考えの筋道、考えの軸を明確にし、パターン分類の数量化を行って、踏切通行者と年代別、性別、無事故者群、事故者群の各グループ別にその意識構造を計量的に表わして、比較検討を行ったものである。(アンケート内容は講演当日説明)

2. 分析結果と考察

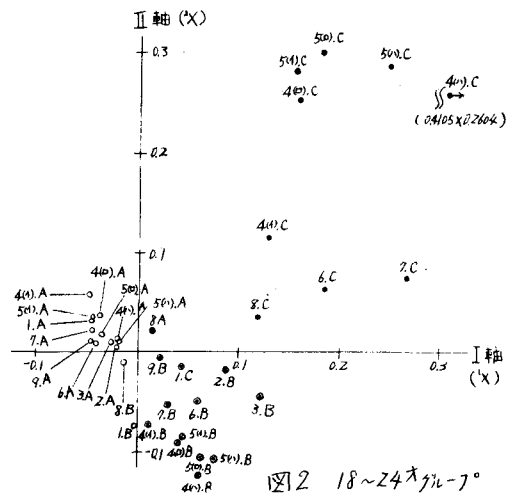
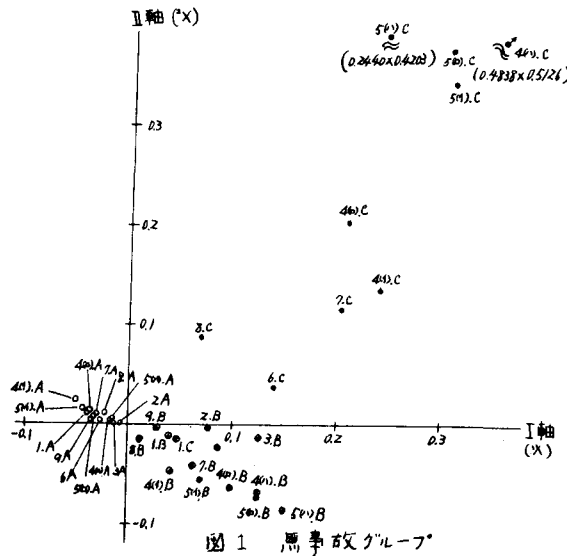
当初意図したアンケート回答の質的内容は、A回答は、踏切規則を順守することに中心とした道徳的回答でありB回答は、非道徳的回答、C回答は強い非道徳的回答である。図1～図4に各グループの回答パターン分類の結果を示す。各グループの図において、X軸は道徳的回答(○印)と非道徳的回答(●印)を分ける軸となっている。Y軸について(二次元)みると、大局的にみてB回答とC回答(●印・●印)を分ける軸となっている。このとき道徳的回答A(○印)はX軸によってほとんど動かす両者の中内に位置する明瞭な図柄が展開されている。しかし、一見よく似たような各グループの図柄も詳細に検討すると回答パターンの相違が見られる。

(1) 無事故グループ

図1に示す図柄は、当初演者が意図した回答パターンとほとんど一致する。A回答(○印)の凝集度は全グループ中(25～34、女性グループ省略)最も高く原点付近に集中している。つまり各問のA回答は、考え方が非常に近く正常な道徳的多数意識である。B回答(●印)とC回答(●印)の分離はX軸によってほとんどきれいにワットされ予測通りであるが、1.C(一旦停止は4種踏切以外必要でない。)回答がB側に落ちたが1.B(一旦停止は科学的検討を要する。)とさきめが近い。このグループの図柄はA.B.Cの回答群が明確に分離し考え方の相違ははっきりと表われた典型的パターンである。

(2) 18～24才グループ(若年層)

この回答パターンの特色は8.A(踏切事故の原因は絶対に人が悪い。)がC領域に位置し、8.B(踏切事故の原因は人と踏切構造、設備)がA領域に落ちていることである。これは若年層の価値判断の特性であり、正論ではなく現実の行動は、ルーズなことをしている者がかなりいることを表わしている。



また、1.B (一旦停止は科学的検討を要す) も A 集団にかけ離れているが A 領域に位置している。A 回答 (○印) のバラツキは、無事故グループに比べてかなり大きく、不純なものが混っている。

(3) 35~59 歳グループ (壯年層)

回答パターンをみると、B 回答 (◎印)、C 回答 (●印) の分布範囲が小さく、Ⅱ軸に対する傾きが特に小さい。つまり大局的にみて、B 回答と C 回答の考えに他グループ程大きな相違はない。

1.B, 2.B, 3.B, 4(B).B, 5(B).B, 8.B, 9.B などが大量に C 領域へ位置している。この結果、他グループでは B 領域であっても、本グループでは C 領域とするきわめて慎重な踏切態度を裏付けるものであり、責任ある年令層として当然の結果である。

(4) 長期免許グループ (事故者群)

回答パターンにみられるように、A, B, C 回答群のバラツキが全グループ中最も大きく、意識のバラツキの大きさ、すなわち価値観の多様化が表われている。

特に A 回答群のバラツキはきわめて大きく、不純な非道徳的考えが相当混っている。特に 8.B が若年層と同様 A 集団に属し、1.C (一旦停止は4種踏切以外必要でない。) 9.B (事故防止のためには、警報機、踏切構造などの改良が先決である。) が A 集団に近い原素付近の多岐的意識であることは、踏切に対する態度を明確に浮き出していると言えよう。

(5) 道徳的・回答の物差

パターン分類の数量化の結果、各グループの道徳的・回答の尺度値として、大局的にはⅡ軸の値 (ただし黒質は回答の両方と除く) つまり二次元で測定することができ結論を得た。したがって今一度全体の数量化と行わなければならないが、大略の値として二次元的物指を使い、A 回答に1点とす、B, C の非道徳回答に0点とす、個人別合計をもつて道徳的意識の尺度として各グループの比較を行ったのが図5である。最も多い尺度値は若年層で7点 (15.9%)、壯年層11点 (22.9%)、無事故者群11点 (17.1%)、事故者群8点 (18.7%) であり、12点の比率は壯年層 22.5% で最も高く、若年層が 2.6% で最も低い。

参考文献

- (1) 国鉄労働科学研究所: 踏切事故防止対策の研究 (1)
- (2) 林知秋編: 比較日本人論

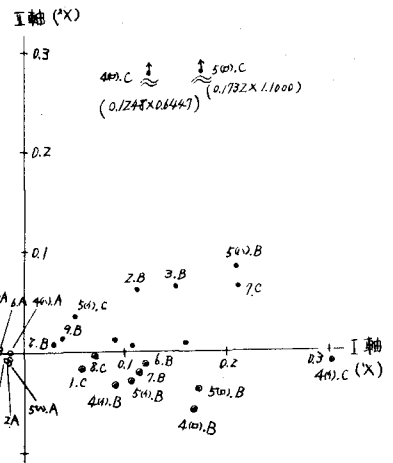


図3 35~59 歳グループ

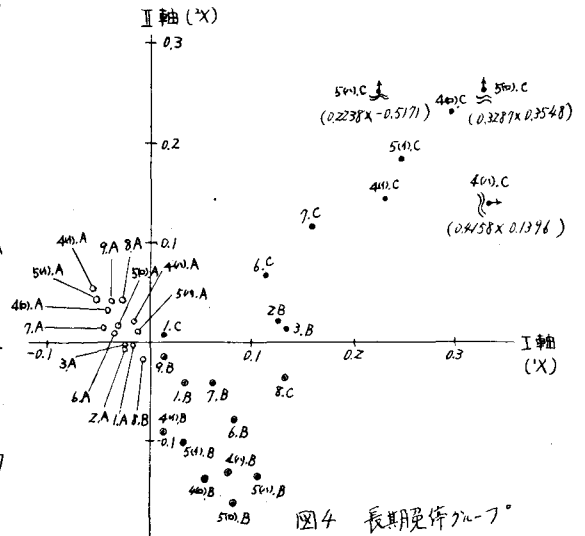


図4 長期免許グループ

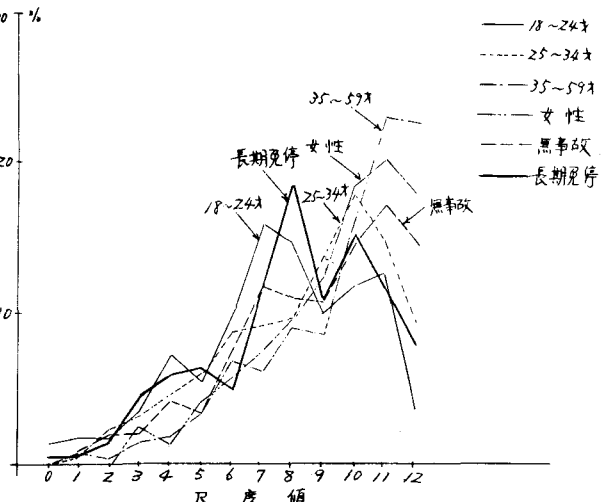


図5 グループ別道徳的・回答尺度値の分布